

なるみ社労士事務所通信

2024年 春号 (第13号)



NARUMI
なるみ社労士事務所

春風を頬に感じ、心華やぐ頃になりました。
皆さまにおかれましては輝かしい春をお迎えのことと存じます。

2月に厚生労働省が発表した2023年の出生数の速報値は75.8万人でした。予想以上のスピードで少子化が進んでいます。子育て・介護・治療との両立支援、長時間労働の改革、賃上げ。中小企業でも今まで以上に真剣に考えていかなければいけないフェーズに入っています。厳しい環境の中ではありますが、少しずつでも前に進もうとすることが中小企業が生き残る唯一の術なのかもしれません。

1 各保険料率の改定

[令和6年3月分から]

●協会けんぽの一般保険料率

東京都：9.98%

埼玉県：9.78%

神奈川県：10.02%

●介護保険料率

全国一律：1.60%

※各保険料率が改定されています。給与計算・手続きの際にはご注意ください。

※令和6年度の雇用保険料率は令和5年度と同率です。

[令和6年4月から]

●労災保険料率

労災保険料率を業種平均で0.1/1000引き下げられます。全54業種中、引下げとなるのが17業種、引上げとなるのが3業種です。

●労災保険労務比率

請負による建設の事業に係る労務費率（請負金額に対する賃金総額の割合）が改定されます。

●第二種特別加入保険料率

一人親方などの特別加入に係る第2種特別加入保険料率が改定されます。

全25区分中、引下げとなるのが5区分です。

いちご狩り

我が家では、毎年3~4月頃にいちご狩りに行くのが恒例行事です。

自分でとったいちごを頬張るわが子と、それに負けじと食べ続ける私…!

今はいろいろな品種があり、食べ比べをするのもとても楽しかったです。いい気分転換になりますね。

出版記念セミナー

3月20日、社労士関連書籍の出版記念セミナーに参加してきました。開業当初のことを思い出したり、3年目の私に喝が入るようなお話しもあつたり。とても有意義な時間でした。同業の方々との交流や情報交換も強い刺激を頂きます。

なるみ社労士事務所

東京都羽村市の社会保険労務士事務所

TEL: 080-9436-2378

MAIL: info@nrm-office-sr.com

WEB: https://nrm-office-sr.com/

誰もが活躍したいと思える
会社づくりをサポートをします



HP



Facebook



Instagram

代表 岡野成美



2 女性活躍推進

※ジェンダーギャップ指数…各国における男女格差を数値化したもので、世界経済フォーラムが毎年公開しています。

2023年のジェンダーギャップ指数、日本は146か国中125位で、前年の116位から9ランクダウン。格差が大きいほど順位は後ろになるので、日本は男女格差がとても大きい国と言えます。2023年の125位という順位は、2006年の公表以来、最低です。

- ・政治 138位
- ・経済 123位
- ・健康 59位
- ・教育 47位 ⇒ 総合 125位

政治と経済の分野が目立って順位が低く足を引っ張っていることがわかります。

日本は、古くから社会的・文化的につくられる「男らしさ」「女らしさ」という概念が強い国です。

「男性は外で働き、女性は家庭を守るもの」という考え方が抜け切れていない方、令和の現代にも一定数いらっしゃるように感じます。

ではなぜ昨今、女性活躍推進が叫ばれているのか？原因は複数ありますが、今回は少子高齢化に関して考えてみようと思います。

少子高齢化

まずは出生率の問題。子どもを多く産んで増やすのなら、女性は働かない方がいいのでは？というご意見もたまに聞きます。

しかし政治・経済を含めたジェンダーギャップが少ないほど出生率が高いという分析結果もあり、男女平等な国ほど出生率が高い傾向にあることが、諸外国の状況からも明らかにされています。

たとえば家事育児の分担。夫の家事育児時間が長いほど第二子以降の出生割合が高いことが調査データから明らかになっています。しかし妻と夫の1週間の家事育児時間を比較すると、妻が平均7時間34分なのに対し、夫は平均たったの1時間23分。これでは家事育児負担の大きい妻は、複数人の子どもを持つことをためらってしまうもおかしくありません。このことからわかるのは、男性を含めたすべての働く人の長時間労働や仕事と家庭の両立の仕方を見直し、改善していく必要があるということです。

また、少子高齢化が進んでいる昨今では、労働力不足も大きな社会課題です。労働力不足補充のために女性にも働いてもらう！というだけでなく、多様な価値観を受け容れイノベーションを起こして、少ない労働力でも仕事が回るようにする。このためにも女性の視点や力が必要なのではないでしょうか？

3 編集後記

4月1日に、なるみ社労士事務所は開業2周年を迎えることができました。これもひとえに皆様の温かいご支援のおかげと改めて感謝申し上げます。3年目も皆様の期待に添えますよう、より一層努力して参る所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

代表 岡野 成美